

要旨

叙述類型論とは、デキゴトの叙述とモノ（の属性）の叙述を並置した文構成モデルを文論のモデルとして提唱するものである。本発表の目的は、叙述類型論のこれまでの研究の展開とこれからの研究の課題を素描することである。発表では、最初に叙述の類型の概要を述べ、それをもとにこれまでの研究の展開、これからの研究の課題という順に話題を提供する。

叙述の類型の概要については、特定の時空間に実現する事象（event）を叙述する事象叙述と、対象の属性（property）を叙述する属性叙述という2つのタイプを分けたうえで、事象叙述（例「親が子供を遊園地に連れて行った」）は[[項-述語] テンス・アスペクト]という構成様式を取り、属性叙述（例「音楽は心の糧だ」）は[対象表示部分+属性表示部分]という構成様式を取ることを指摘する。言い換えれば、前者は述語を主要部とする内心構造を形成し、後者は対象表示部分と属性表示部分からなる外心構造を形成するということである。

これまでの研究の展開については、主として2つの流れが認められることを指摘する。そのうちの1つは、言語学における意味論の研究を踏まえた理論志向のアプローチである。このアプローチの特徴は、日本語を含む様々な言語に見られる様々な言語現象が叙述の類型の概念により統一的に説明できると主張する点である。もう1つは、日本国内の研究に連なる日本語研究からのアプローチである。その特徴は、日本語の観察をもとにモデルを構築し言語対照によりその一般化・相対化をめざす点にある。

最後に、これからの課題をめぐって、“属性”の概念の理解を深めるという点と、文構成の基本デザインを追究するという点を取り上げる。このうちの、“属性”の概念の理解を深めるという点については、属性というものにどのようなタイプが認められるかを考察する。属性のタイプには、本来的な属性として、対象が属するカテゴリーを表す「カテゴリー属性」（例「あの人は作家だ」）と、対象が有する性質を表す「性質属性」（例「あの人は温厚だ」）がある。加えて、事象から派生する属性として、対象が有する習性を表す「習性属性」（例「あの人はよく物を置き忘れる」）と、対象が有する履歴を表す「履歴属性」（例「あの人はオリンピックで優勝した」）がある。

もう1つの課題は、文構成の基本デザインを追究する—より具体的には、文構成の基本デザインに関する言語類型の有り様を追究する—ことである。その言語類型としては、属性叙述の主題・解説の構成を基盤とする日本語型と、事象叙述の項・述語の構成を基盤とする英語型の区別が考えられる。属性叙述の構成を基盤とする日本語型は、主題が顕在化する「主題卓越型言語」となり、事象叙述の構成を基盤とする英語型は、主語（項・述語構造における中心項）が顕在化する「主語卓越型言語」となる。